

おじゃまします！



第一中学校区学校運営協議会 発行

2023. 8. 20 No.61

文責：徳永哲郎（地域学校コーディネーター）

吹奏楽部「志願の演奏」(7/21,一中)



「一人一人が思いを伝えよう！」と森田校長

一中の終業式後、予定になかった吹奏楽部のミニ演奏会がありました。約10分間、部員たちは背筋を伸ばして練習の成果を披露。演奏が終わると、聞き入っていた全校生徒と教職員から大きな拍手が送られました。

今回の演奏は、吹奏楽部の生徒たちが「8月に行われる大会で演奏する曲をみんなに聞いてほしい」という思いを森田校長に伝えたことで実現したそうです。演奏に先立って森田校長は『今までそうだったから』と思わず、『こうしたい』と伝えたことが今日につながりました。皆さん一人一人が主権者です。思いをどんどん表現しましょう。それが社会を築く力になります。」と語りかけられました。

演奏後の部員たちは誰もが「やりきった」という表情。このような経験を積み重ねる場が大切だと思いました。

♪「1年生の時に経験して、またやりたいと思ったけど、去年はできませんでした。今回演奏できて、めっちゃよかったです！今度の大会も頑張ります！」(吹奏楽部長・仲元千華さん)

♪「大会に向けて頑張っていることをみんなに知ってもらえてよかったです。」(指導・濱田敦子先生)



コミュニティ・スクールって何？②

皆さんの疑問にお答えします

❶「学運協はどんなことをしているのですか？」

学運協は、学校運営についての協議を年3回程度行います。また地域の皆さんの理解、協力、参画等が促進されるよう、通信「おじゃまします！」を発行したり、「のぼり旗」を作ったり、意見交換会(熟議)を開いたりしています。

❷「ボランティアはCSと関係があるのですか？」

学校はこれまでもボランティアに支えられてきましたが、学運協は、学校と地域が同じ「育てたい子ども像」をもち、実現に向けて、地域の人材や行事、文化財等を生かす学習ができるよう、コーディネーターを中心に学校・地域に働きかけています。方向を考え作戦を練る「学運協」と具体的な活動を行う「地域学校協働活動」は「車の両輪」です。

合言葉は「浮いて待て！」(7/13,上道小)

境港サーフレスキューの岩本和貴さん(一中校区CS会長)を講師に、今年も5・6年生が「着衣泳」の学習をしました。5年生は岩本さんと支援の消防士2名・海上保安官2名の「できた!」「もう1回!」等の言葉でめきめき上達し「3分間浮いて待て!」テストはほぼ全員が合格でした。「水の事故で毎年約20人の小学生が亡くなっています。現場に出るたびに『命を大切にしてほしい』と思います。助けに行った人がおぼれることもあるので、『浮いて待て』を忘れないで下さい。」子どもたちは岩本さんの話を真剣に聞いていました。



※この学習は7月19日、境小でも行われました。

秋の「見守りあいさつ大作戦」



9月25日(月)～29日(金)

「みんなで声を掛け合って、顔なじみになろう！」

♥一人一人ができる時に、できる範囲で、気楽に、出会う子どもたちに声をかけて下さい。地域の団体や事業所の皆さんも、ぜひよろしく願いいたします。

♥「散歩しながら」「庭仕事しながら」「ジョギングしながら」等の「ながら見守り」、大歓迎です!

※のぼり旗をお持ちの皆さんはぜひ立てて下さい。期間以外でも立てて頂いて結構です!

いたんでいましたら一中内CS事務局まで! 一中HP QRコード



「ふだんできない体験を」～公民館・夏休み子ども講座～

境公民館の「科学実験教室」(8/1)

米子高専の谷藤尚貴教授を講師に迎え、19名の子どもたちが学校では体験できない二つの実験に挑戦しました。

このうち、液体窒素を使った実験では、-196℃の液体窒素が入った容器にバナナやペチュニアの花、キャベツ、ゴムボール等を入れて様子の変化を観察しました。床に落としたボールが「パリーン」と割れると大きな歓声。また最後に玄関で液体窒素が流されると、子どもたちは気化する白煙を夢中になって踏んでいました。



上道公民館の「子どもクッキング」(8/2)

会場の上道町会館では、子どもたち11名が食生活改善委員や境港市健康づくり推進課員の指導を受けて、ポリ袋とお湯で作る「やさいオムレツ」ほか「子どもが作るおうちごはん」のメニューづくりに挑戦。

稲迫玲菜さん(上道小5年)は「材料の切り方が参考になったので、家の手伝いでも生かしたいです」とニコリ。

